

記者会見資料

総合政策部 財政改革課
(担当 吉澤 22-9331)

1. 件名

令和3年度当初予算(案)の概要について

2. 内容

(1) 予算編成の考え方

本市の財政は、新型コロナウイルス感染症の影響や税制改正等により、歳入の根幹を占める市税の大幅な減収が見込まれるとともに、各種交付金等の増収も見込めないなど、一般財源総額の確保が大きな課題となる一方、歳出では、扶助費等社会保障関連経費の増加をはじめ、地震や台風等の防災・減災対策、公共施設の老朽化対策など、喫緊の行政需要への対応が求められていることから、今後の財政運営は極めて厳しい状況を迎えることが想定されます。

将来に渡り、健全財政を維持し、市民に安定的に行政サービスを提供していくためには、これまで以上に行財政改革を推進することにより歳出を抑制し、持続可能な財政基盤を確立していく必要があります。

このような状況を踏まえ、令和3年度当初予算は、全ての事業について、例外を設けることなくゼロベースでの見直しを行い、本格的な人口減少社会を見据え、市民が暮らしやすく今後も住み続けたいと思えるような、快適で利便性が高く、都市と田園環境が調和したゆとりと潤いのある「田園環境都市小山」を築くため、令和3年度を初年度とする「第8次小山市総合計画」に掲げる7つのまちづくりの基本目標を実現するための諸施策について、SDGsとの一体化を図りながら、効果的に推進することができるよう予算を編成いたしました。

なお、令和3年度予算では、厳しい財政状況を踏まえつつ、喫緊の課題である公共施設の改修、道路補修、公園管理等に優先的に予算を配分するとともに、事業見直しにあたっては、市民への十分な周知期間が必要であるなど、市民生活への影響も考慮し、拙速を避けることとしたため、大幅な歳出の抑制が困難となりましたが、今後も引き続き、行財政改革を推進し歳出を抑制するとともに、財政調整基金については、財政調整基金積立計画に基づき、令和2年度の決算剰余金を優先的に積み増しするなど、財政の健全化に取り組んでまいります。

(2) 予算の規模

令和3年度一般会計当初予算の規模は、前年度比34億円、5.0%減の639億5千万円となりました。

(市立体育館整備、公園整備及び中学校トイレ改修について、国の補正予算に合わせ、令和2年度2月補正予算への一部前倒しを行い、一体的に編成)

(3) 予算の特徴

①新庁舎移転と公共施設の適正管理

「夢・未来あふれる“新しい時代の行政創り”の中核拠点」として、令和3年5月に開庁予定の新庁舎への移転を円滑に実施するとともに、ICTを積極的に活用し、市民の安全・安心の確保と効率的な行政サービスの提供を図ってまいります。また、公共施設の適正な管理を推進するとともに、老朽化した施設の長寿命化と機能集約に取り組んでまいります。

②「田園環境都市小山」の推進

都市と田園環境の調和ある発展を目指すため、自然環境の保全・再生を図り、生物の多様性に配慮した持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

③排水対策の強化

台風や集中豪雨による大規模浸水被害への対策として、豊穂川の河道の拡幅・築堤をはじめ、調整池の整備や田んぼダムの推進等、豊穂川・杣井木川流域の排水対策の強化に取り組んでまいります。

④産業・都市・教育基盤の整備

令和3年7月開館予定の市立体育館、令和4年度開校予定の豊田中学区新設小学校、令和4年度整備完了予定のテクノパーク小山南部の整備等を着実に推進するとともに、老朽化した道路や公園、学校等の維持補修及び長寿命化に取り組んでまいります。

⑤子育て環境の充実

母子健康包括支援センターを開設し、妊娠・出産・育児期における切れ目のない支援を提供するとともに、送迎保育の充実をはじめ多様な子育てニーズに対応した事業を展開するなど、子育て環境の充実に取り組んでまいります。

(参考) 主な経費の比較 (単位:百万円、%)

性質別	令和3年度		令和2年度		対前年度比		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	構成比
義務的経費	31,142	48.7	29,484	43.8	1,658	5.6	4.9
人件費	10,081	15.8	9,925	14.7	156	1.6	1.1
扶助費	14,697	23.0	13,819	20.5	878	6.4	2.5
公債費	6,364	9.9	5,740	8.6	624	10.9	1.3
投資的経費	8,037	12.6	12,681	18.8	△ 4,644	△ 36.6	△ 6.2